

設置概要

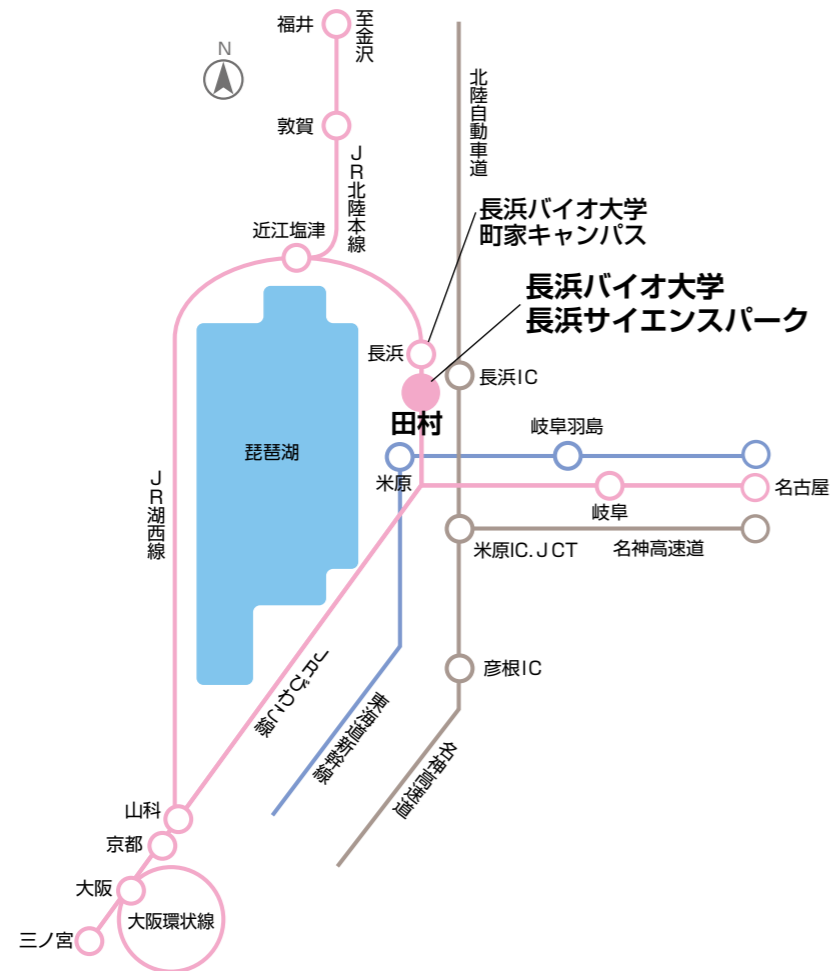
名称 長浜バイオ大学大学院
バイオサイエンス研究科
バイオサイエンス専攻

設置形態 区分制博士課程

設置課程 博士課程前期課程
博士課程後期課程

学位名称 修士(バイオサイエンス)
博士(バイオサイエンス)

入学定員 博士課程前期課程 36名
博士課程後期課程 5名



n·bio 長浜バイオ大学大学院
Graduate School of Bioscience
Nagahama Institute of Bio-Science and Technology

お問合せ先 長浜バイオ大学 大学院教務担当
〒526-0829 滋賀県長浜市田村町1266番地 E-mail:jim@nagahama-i-bio.ac.jp
TEL.0749-64-8100(代) FAX.0749-64-8140 URL:http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/



2014 大学院案内



n·bio Graduate School of Bioscience
長浜バイオ大学大学院

大学院バイオサイエンス研究科 博士課程前期課程 博士課程後期課程

www.nagahama-i-bio.ac.jp

バイオサイエンスをより深く学び、社会に貢献する道

21世紀は生命科学の時代ともいわれています。現在の社会は、環境破壊、食の安全への不安、がん・循環器病・糖尿病などの生活習慣病、トリインフルエンザなどの新興感染症、原子力に頼らなければ生きてくエネルギー不足などの様々な問題を抱えています。バイオサイエンスがこれら数々の難問を解決することに大きな期待が寄せられているところです。例えばiPS細胞の開発に対してのノーベル賞は、その一つの現われでしょう。

このような期待を受けて、長浜バイオ大学は豊かな人間性と幅広い教養を養い、バイオサイエンスの専門知識・技術を兼ね備えた人材を養成すること、また地域社会の発展、産業の振興、国際交流並びに学術文化の発展に貢献することを目的として2003年に創立されました。そして2007年には、第1期生の卒業に合わせて大学院博士課程の前期課程と後期課程が設置されました。

大学院に進学する動機は、「世界の誰にも知られていない新しいことがわかる喜びがある」、「自分で実験を計画して答えを出すのが面白い」、「研究職につきたい」等があります。このような夢を持った人は、大学院に進学し、バイオサイエンスをより深く学び社会に貢献する道があるでしょう。どんな小さなことでもよいので、新しいことを自分の手で見出し、世界に発信することにより学術文化の発展に貢献することを期待しています。



長浜バイオ大学
学長 三輪 正直



夢を実現できる場所

21世紀に入って、人類には安全で持続的な食料の確保、全ゲノム解析時代の到来に基づく新たな医療の実現、活発化する社会活動からの環境保全と生態系の保持などの問題が提起されております。このような問題の解決に向けた学問基盤を進展させることと、将来のバイオサイエンス社会を担う人材の育成を目的として、長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科バイオサイエンス専攻(博士課程前期課程及び後期課程)が2007年4月に設置されました。

長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科の歴史は浅いものの、これまで多くの優秀な博士、修士を社会に送り出してきました。本研究科を修了した学生の多くが、国内外における研究や教育、生産などの場で活躍していることは、本研究科での研究や教育に携わる全員の喜びであります。

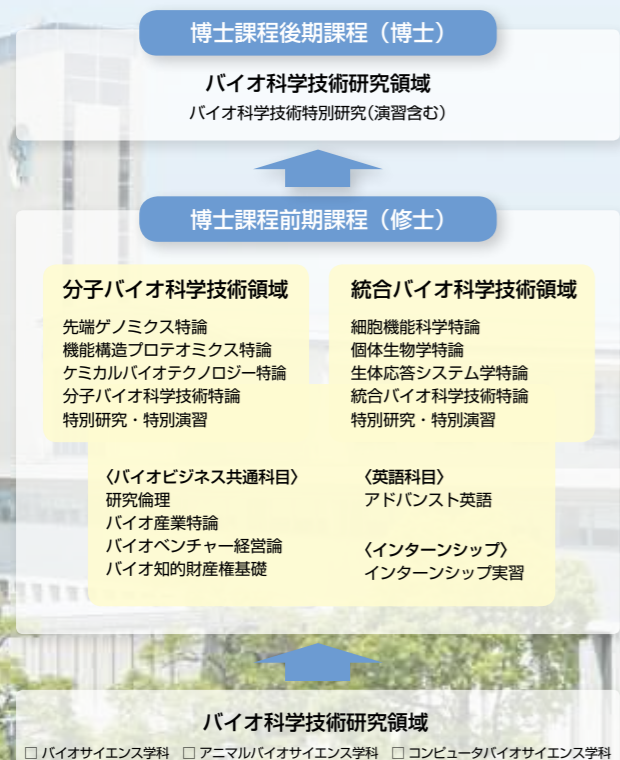
本研究科設置6年を経過した2013年度、社会の新たな要求を満たす研究と、より高い教育効果を実現するために、博士課程前期課程を従来の3領域から分子バイオ科学技術領域と統合バイオ科学技術領域の2領域に再編し、基礎から最先端までの幅広い知識とキャリア教育を組み合わせた新たな教育プログラムを導入しました。これにより、博士課程前期課程では、実社会に対応するビジネスマインドをもちながら、情報解析技術・環境科学・医薬学等を含む広範なバイオの専門的技術知識を活かして、社会で幅広く活躍・貢献できる人材を効率よく育成できるようになりました。

本学のバイオサイエンス研究科において、レベルの高い研究と質の高い教育は両輪を成すものであり、どちらが欠けても前に進みません。本研究科は、このような研究と教育を強力に推進できる最先端の研究機器や研究環境、教員組織を有しており、今後も人類の福祉に貢献できる学問の進展と、将来を担う人材の育成を強力に進めていきたいと思っております。長浜バイオ大学大学院は、バイオサイエンスを目指す若い皆様の夢を実現できる場所です。高い志と情熱を持つ皆様が本研究科に集っていただけることを心から期待しております。



長浜バイオ大学大学院
研究科長 蔡 晁植

バイオサイエンス研究科 バイオサイエンス専攻



連携大学院

大学と企業の研究機関が協力して大学院教育を行うため、タカラバイオ株式会社との間で教育に関する協定を結びました。学外の高度な研究水準の研究者を大学の客員教授・客員准教授として迎え、または連携先の研究機関の施設・設備を活用し大学院学生の研究指導を行うという方法により実施します。

長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科バイオサイエンス専攻博士課程前期課程において、「ゲノムテクノロジー分野」の教育を行うもので、2014年4月より受け入れを開始します。



バイオのスペシャリストを養成する、 科学技術領域の構成

■設置趣旨

21世紀は、新しい知識・情報・科学技術が活動の基盤として重要性を増す、「知識基盤社会(knowledge-based society)」の時代です。「知識基盤社会」へ移行するために、大学院の基盤を強化し、『科学技術創造立国』の形成に資する優れた人材を育成することが、緊急かつ最重要な課題となっています。

大学院における人材育成機能を強化するために、大学院博士前期(修士)・後期(博士)課程における教育と研究の強化—すなわち大学院教育の実質化を図って「魅力ある教育」を実践していくことが、これからの科学技術社会において求められます。特に、バイオ分野は、幸せて健康な長寿社会と持続可能な社会の実現に、中心的な役割を担うことが期待されています。

こうした社会からの要請や期待に応え、未来を切り拓く人材を育成し、バイオサイエンス・バイオテクノロジー分野での研究成果の産業化を促進し、医療や地域の発展並びに持続可能な社会の形成に貢献することを目的として、本学は、大学院バイオサイエンス研究科バイオサイエンス専攻(博士課程前期課程及び後期課程)を2007年4月に設置しました。

■人材育成の目標

産業界で研究・開発に従事する人の多くが大学院修士課程修了者であるなど、大学院の役割は、高度研究者の養成だけでなく、専門職業人材の育成へと広がっています。博士課程前期課程では、実社会に対応した考え方・捉え方ができるビジネスマインドをもちながら、情報解析技術・環境科学・医薬学等を含む広範なバイオの専門的技術知識を活かして、社会で幅広く活躍・貢献できる専門職業人材を育成します。特に自治体や民間製造業の研究所などでは、これらの能力を備えた人材に対する要望が強くなっています。

博士課程後期課程では、創造性豊かな優れた研究・開発能力をもち、産官学の広範な研究・教育機関で中核的な役割を担う研究者等を育成します。前期課程で研究した内容をより深く高度に追究し、自発的・主体的な研究を基に自立した研究者を育成する、体系的教育課程を編成しています。

■修了要件

博士課程前期課程(標準修業年限2年)

前期課程(修士課程)の修了要件は、①～⑤の条件を全て満たし合計30単位以上修得し、必要な研究指導を受け修士論文審査に合格することです。修了した学生には、修士(バイオサイエンス)の学位が授与されます。

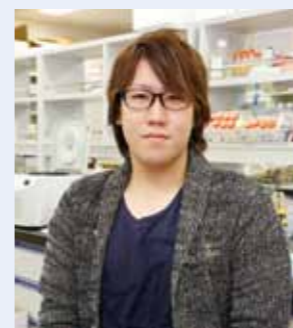
- ①所属領域科目の内、特別研究・特別演習を含む24単位以上
 - ②所属外の領域から、特別研究・特別演習を除く特論(講義)2単位以上
 - ③2領域の内の特論(集中)より1単位以上
 - ④バイオ・ビジネス共通科目より2単位以上
 - ⑤英語科目1単位
- (特に優れた業績をあげた場合には、研究科委員会が認めた場合に限り1年で修了することが可能です。)

博士課程後期課程(標準修業年限3年)

「バイオ科学技術特別研究(演習含む)」を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、博士論文提出かつ審査および試験に合格した場合、博士(バイオサイエンス)の学位が授与されます。

(特に優れた研究業績をあげた場合には、研究科委員会が特に認めた場合に限り在学期間を短縮することが可能です。)

先輩が語る、大学院進学の話



白井 文人さん
(2013年度博士課程前期課程入学)

私は学部4年次生から、腸管IgA抗体が認識する腸内細菌の共通抗原解析を行っています。この研究を進めていくうちに、腸管内での分泌型IgAが腸内常在細菌叢をどのように認識して、制御しているのかを明らかにしたいと考え、本学大学院に進学しました。

大学院の研究生活では、学部生時代より高いテクニックが必要となっています。予想通りの結果が出ない時の対策も考えなければなりません。研究室の仲間とディスカッションをすることで研究のヒントが得られ、多くの方々からアドバイスを貰うことで、研究の改善策を考えます。

このように自分自身で考え、時には仲間の協力を得ながら研究を進めています。



田邊 瑠里子さん
(2013年度博士課程前期課程入学)

私が長浜バイオ大学を受験した理由は、設備の整った実験室で最先端の技術を学びたいと思ったことでした。3年次生後期に、野村先生の研究室に配属になりました。私なりに実験技術に自信があったのですが、先生から見れば「子供の遊び」だったそうです。野村先生も時々実験をされます。先生の手の動き、視点、体の使い方、どれ一つとっても私は全くかきません。

野村先生はよく、「食っていきける実験者になれ」と言われます。器用さだけではなく、計画性、準備、そして実験を成功させるために必要な勉強すべてが実験の一部だと教えられました。大学院に進学した理由は、これまでまとまりのない状態で身につけた知識と技術を一体化して、技術職をめざしたいからです。

領域の紹介

バイオサイエンス専攻

分子バイオ科学技術領域(博士課程前期課程)

高次の生命現象を分子レベルで解析することを通して、その基本原理や複雑な機能を根本的に理解し、これらをバイオ技術として生かすための教育・研究を行います。

生物の成り立ちを分子レベルで理解するためには、核酸やタンパク質などの生体分子に始まり、その複合体やネットワーク、さらには小器官から細胞、個体にまで連なる現象の一つ一つを、分子生物学、生化学、有機化学、バイオインフォマティクスなどのバイオサイエンスの方法を駆使して解析する必要があります。また、分子レベルでの個別的な解析技術に加えて、網羅的な解析技術を融合させた俯瞰的な解析が求められてい

ます。そこで、分子バイオ科学技術領域では、ゲノムの大量情報を処理・解析する技術、さらにはタンパク質の機能予測とその医療・創薬への応用技術、プロテオームやメタボロームなどの網羅的解析技術、遺伝子工学、タンパク質工学やケミカルバイオロジーなどの技術を学びます。

このような教育・研究を通して、生命現象に関する多くの命題に対して分子レベルでの研究に貢献でき、人類の福祉や地球環境の改善にとって役に立つ応用技術を開発できる人材の育成を目指します。

バイオサイエンス専攻

統合バイオ科学技術領域(博士課程前期課程)

生物個体や細胞の様々な機能について分子生物学、生化学、解剖学、生理学、あるいは病理学的な観点から統合的に理解し、これらをバイオ技術として生かすための教育・研究を行います。

地球上に存在するすべての生命体やこれを構成する細胞の機能は、多様な化学的、生物学的反応が統合された結果です。このような生体および細胞の生命活動を理解するためには、分子生物学、生化学、解剖学、生理学、病理学などのバイオサイエンスの様々な分野で要求される手法を駆使して解析し、得られた結果を統合的にとらえる必要があります。そこで、統合バイオ科学技術領域では、生命個体や細胞における様々

な生命現象を統合的に理解するために、遺伝子工学や生化学的手法を用いて生命機能をつかさどる生体分子を改変する技術、細胞工学と微細構造解析を用いて高度に分化した細胞の機能を研究する技術、情報伝達や免疫機構、病態・病理を動物の個体レベルで研究する技術、また、環境における生物の多様な生命活動を様々な研究手法で解析する技術等を学びます。

このような教育・研究を通して、様々な生命活動を統合的に理解し、生命活動の機構研究に貢献する人材や人類の医療・福祉に役立つバイオ技術を開発する人材の育成を目指します。

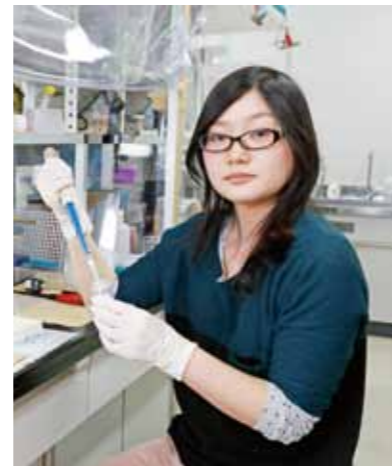
私の研究

西 秀麗さん (博士課程前期課程 2年)

タンパク質の新規配列方法の確立を目指す研究を行っております。タンパク質のアミノ酸配列をDNAやRNA配列のようにオンチップで読解を可能にするこの方法が確立されれば、プロテオミクスの網羅的解析が迅速かつ簡便に行えるようになります。私の研究室では整列エピトープマッピング法と名付けたこの配列決定法を実現するためにはアミノ酸の任意の3連続配列(トリペプチド)に対する特異的な抗体を網羅的に(理論的には $20^3=8000$ 種類)取得することが必要です。

私の研究課題は、この目的のためにライブラリーを構築し、そこからトリペプチドに特異的に結合する抗体を取得することです。現在、マウス抗体分子の抗原結合に関与する遺伝子領域(CDR領域)に任意の変異を加えたライブラリーの構築に成功したところがあります。このライブラリーの質を検証するために、種々な抗原を標的として、このライブラリーから特異的に結合する抗体を選択しております。

本学大学院ではバイオ領域のプロフェッショナルな先生方が揃っており、自分の研究に対して様々な角度から気軽に助言がもらえます。



西 義介
学長特別補佐・教授
[専門分野]
蛋白質工学、抗体工学、分子遺伝学

水上 民夫
研究部長・教授
[専門分野]
抗がん剤創薬、遺伝子科学

大島 淳
教授
[専門分野]
遺伝子工学

河合 靖
教授
[専門分野]
酵素化学、生物有機化学

白井剛
図書・情報センター長・教授
[専門分野]
情報構造生物学

永田 宏
教授
[専門分野]
医療情報学、医療経済学

和田 健之介
教授
[専門分野]
数理情報可視化、先進的情報教育学

大島 一彦
准教授
[専門分野]
分子進化学、再生ゲノム学

高橋 健一
准教授
[専門分野]
生物物理学、計算構造生物学

長谷川 慎
准教授
[専門分野]
ケミカルバイオロジー

向 由起夫
准教授
[専門分野]
分子遺伝学、環境微生物学

向井 秀仁
准教授
[専門分野]
ペプチド科学、細胞生物学、創薬科学

中村 卓
講師
[専門分野]
生物有機化学・タンパク質工学

依田 隆夫
講師
[専門分野]
計算構造生物学

私の研究

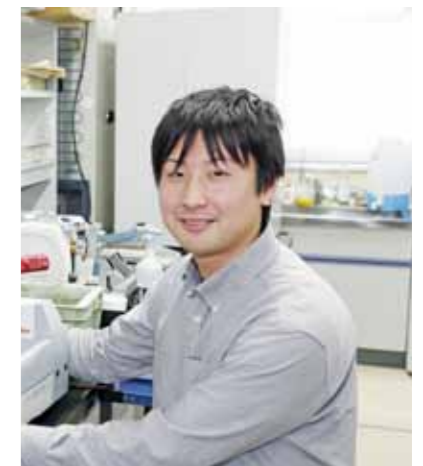
大垣 浩亮さん (博士課程前期課程 2年)

生物にはリズムをもった生命現象が数多く知られています。こういった現象のなかでも、一定のリズムで毛が生え換わる現象である毛周期は、古くより特に長い周期を持つ生体時計と言われ、多くの研究者から注目されていますが、解明が進んでいません。

私の研究室では、3回目の毛の生え変わりまでは遺伝子型を反映させた黒色の毛を生やしますが、4回目の毛の生え換わりから周期ごとに茶色の毛と黒の毛を交互に生やす表現型を持つ、突然変異体マウスを飼育しています。このマウスが、どのようにして毛色を交互に変化させるのかを研究することによって、毛周期メカニズムの解明に繋げることが私の研究の目的です。

この現象を解明できれば、周期性を持つ他のさまざまな生体現象の解析だけでなく、それらの混乱から生じる疾病の治療にも将来応用できるものと期待しています。

バイオ分野の様々な領域で研究を行う先生や先輩から異なる視点での助言を頂き、広い範囲の知識を学びながら研究に取り組んでいます。



三輪 正直
学長・産官学共同研究・事業開発センター長・教授
[専門分野]
動物病理学、分子腫瘍学、翻訳後修飾

山本 章嗣
学部長・教授
[専門分野]
細胞生物学、組織構造学

蔡 見植
研究科長・教授
[専門分野]
細胞間情報学、植物分子生理学

山本 博章
教務部長・教授
[専門分野]
色素細胞の発生と機能発現機構、環境ストレス緩和

伊藤 正恵
教授
[専門分野]
微生物学(ウイルス学)

植月 太一
教授
[専門分野]
発生生物学

萩野 肇
教授
[専門分野]
発生生物学、ゲノム進化学

齊藤 修
教授
[専門分野]
分子生物学、神経生物学、生化学

新蔵 礼子
教授
[専門分野]
免疫学、分子生物学

永井 信夫
教授
[専門分野]
生理学、神経科学、血栓止血学

野村 慎太郎
教授
[専門分野]
分子病理学、発生生物学

林 誠
教授
[専門分野]
植物生理学、植物細胞生物学

岩本(木原) 昌子
准教授
[専門分野]
細胞機能学

亀村 和生
准教授
[専門分野]
細胞制御学、糖鎖生物学

河内 浩行
准教授
[専門分野]
分子生物学、動物生理学

小宮 徹
准教授
[専門分野]
分子細胞生物学

和田 修一
准教授
[専門分野]
発生生物学、ストレス生物学

池内 俊貴
講師
[専門分野]
環境分子応答学、生殖生理学、内分泌学

今村 綾
講師
[専門分野]
分子生物学、植物生理学

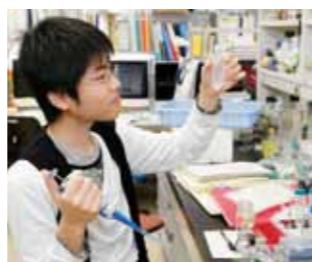


バイオサイエンス専攻

バイオ科学技術研究領域(博士課程後期課程)

分子バイオ科学技術領域と統合バイオ科学技術領域の諸分野を深く理解するために、バイオサイエンス分野の最先端の手法を駆使し、細胞、個体、生体システム等の様々な生物階層における重要な生物学的諸問題の基礎研究を推進します。また、生体機能、生体物質、生体情報等の幅広い知識、優れたプレゼンテーションやコミュニケーション能力、倫理観を養うための高度な教育を実践します。

このような博士課程後期課程における研究と教育により、戦略性と創造性に富む高度な専門技術能力を習得することに加えて、自ら課題を発見し解決し、世界に発信できる能力をもつ優れた研究者・教育者・高度専門技術者の育成を目指します。



設置科目と研究指導体制

研究指導体制

バイオサイエンス研究科における研究指導は、複数教員指導体制により行っています。入学後、本人の研究テーマに基づいて指導体制を構成し、研究指導を進めます。



設置科目

課程	区分	設置科目	単位数
前期課程	分子バイオ科学技術領域	先端ゲノミクス特論	2
		機能構造プロテオミクス特論	2
		ケミカルバイオテクノロジー特論	2
		分子バイオ科学技術特論	1
		分子バイオ科学技術特別研究	16
		分子バイオ科学技術特別演習	4
	統合バイオ科学技術領域	細胞機能科学特論	2
		個体生物学特論	2
		生体応答システム学特論	2
		統合バイオ科学技術特論	1
		統合バイオ科学技術特別研究	16
		統合バイオ科学技術特別演習	4
	バイオビジネス共通科目	研究倫理	1
		バイオ産業特論	2
		バイオベンチャー経営論	1
		バイオ知的財産権基礎	1
英語科目	アドバンスト英語	1	
	インターンシップ	1	
後期課程	バイオ科学技術研究領域	バイオ科学技術特別研究(演習含む)	10

*印の科目は修了要件外

私の研究

迹見 勇樹さん (博士課程後期課程 2年)

私は、植物がどのようにして凍結耐性を獲得するのかを明らかにすることを目的として研究を行っています。これまでの研究で、植物は秋から冬にかけての気温の低下を認識することで、凍結耐性を獲得する低温馴化という機構を備えていることが明らかになっています。私は、この低温馴化の分子機構を明らかにするために、植物の様々な遺伝子を過剰発現させた遺伝子組換え植物から低温馴化なしでも凍結耐性を示す組換え体を選抜し、その原因遺伝子の特定を試んでいます。

本学大学院バイオサイエンス研究科の特徴は、様々な分野に特化した多くの研究室があることです。大学院生は毎年中間報告会で自分の研究の進捗状況について研究科全員に報告します。その際に、他分野の教員や先輩からも意見や提案を頂けることによって、自分の研究の幅が広がります。また、研究施設や設備が非常に充実しており、世界のトップレベルで研究を行う環境が整っている点も本学大学院の特徴です。



修了生の進路

株式会社サンブラネット 分析事業本部川島分析グループ

西田 瑛美さん (2008年度博士課程前期課程修了)



私の所属する株式会社サンブラネット分析事業本部は、エーザイ株式会社における医薬品の研究開発から生産の出荷試験に至るまでの医薬品分析業務を幅広くサポートしています。その中で私は、研究開発段階での製剤の物理的・化学的特性が一定期間適正に保持されることを評価する安定性試験や、製剤の処方を変更したり、含量の異なる製剤を申請したりする際に必要な生物学的同等性試験を担当しています。

大学院では、ハナショウガから得られるテルペン化合物を微生物により様々な化合物に変換し、それらの生理活性を評価する研究を行いました。在学中は、生

命科学に関する幅広い知識や技術はもちろんのこと、先生方からの適切なアドバイス、仲間とのディスカッションからも検体に対する観察力や実験結果を考察する力、一つの事象を多角的に理解することの重要性を学ぶことができ、非常に恵まれた環境で研究に励むことが出来たと感じています。大学院で学んだ考え方や視点は、高い信頼性を求められる現在の業務では欠かせないものとなっています。

今後も大学院で学んだ知識や技術を中心に、患者さまの命につながる仕事に責任と誇りを持ち、常に学ぶ姿勢を忘れずに努力していきたいと思っています。

ケイ・アイ化成株式会社 機能性薬品部

青木 信和さん (2011年度博士課程後期課程修了)



ケイ・アイ化成株式会社は、生活環境や産業活動に伴って発生する微生物汚染などに用いられる産業薬品や化成品の開発・生産に携わっている会社です。博士課程修了後、私はこの会社に就職し、現在は新規製剤に関わる研究開発に取り組んでいます。

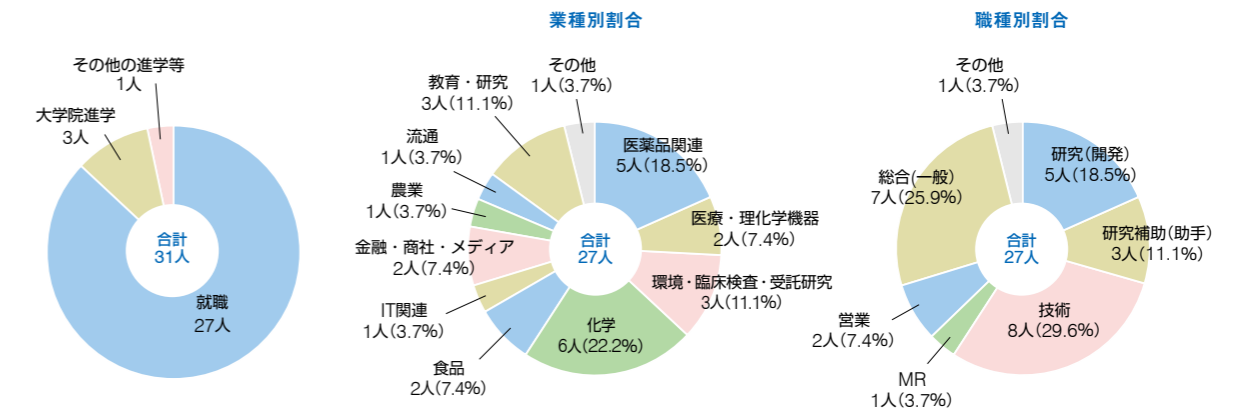
大学院博士課程で、植物由来の新規生理活性物質について研究を進めてきた私にとって、仕事の中で1から学ぶことは数多くありますが、学生時代からの疑問に感じた点は納得がいくまで調べ続けていく習慣は、今の私の大きな助けとなっております。

長浜バイオ大学大学院での日々を振り返ると、私はこの大学院で研究を続けて

きたからこそ研究を仕事に選んだと感じております。大学の設備が充実していることはもちろんですが、それ以上に教員の方々の指導が非常に熱心であったこと、そして遺伝子から生態系まで幅広いバイオの領域で活躍されておられる方々と何度も議論を重ねていくことができる環境は、研究を進めていく上で必要な知識や洞察力の向上に繋がりました。

今後も仕事に取り組む中で様々な困難に直面すると思いますが、学生時代に培ってきた技術や考察力を生かしていくことで、1人でも多くの方に喜んで頂ける製品開発ができるように日々精進していきます。

2013年3月修士修了生の進路 (過年度生除く)



修了生の主な就職先企業 (50音順/敬称略)

業種	企業名
医薬品関連	iPSアカデミアジャパン(株)
	(株)アスクレップ
	アステラスリサーチテクノロジー(株)
	クリオサイエンス(株)
	皇漢堂製薬(株)
	サイトサポート・インスティテュート(株)
	(株)サンブラネット
	(株)シーボック
	滋賀県製薬(株)
	(株)シマ研究所
	シミック(株)
	(株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
	(株)スズケン
	(株)ステムセル研究所
	ゼリア新薬工業(株)
	第一三共プロファーマ(株)
	大正薬品工業(株)
(株)中外医学研究所	
中北薬品(株)	
日東メディック(株)	
日本新薬(株)	
(株)バイオス医学研究所	
浜理薬品工業(株)	
藤本製薬(株)	
(株)陽進堂	
リンパ球バンク(株)	
和光純薬工業(株)	
化学	(株)ADEKA
	一丸ファルコス(株)
	(株)ウエ・ルコ
	尾池工業(株)
	サラヤ(株)
	三和油化工業(株)
	塩野香料(株)
	積水ナノコートテクノロジー(株)
	タカラバイオ(株)
	(株)東洋化学
新日本化学工業(株)	
ナカライテスク(株)	
日本コルマー(株)	
ヤナセ製油(株)	
食品関連	(株)サンシヨク
	(株)千成亭
	タマムラデリカ(株)
	チョーヤ梅酒(株)
	(株)ツキオカ
	日本水産(株)
	ホクト(株)
	マリンフード(株)
	森永乳業(株)
	(株)雪国まいたけ
医療・理化学機器	(株)コーガイントープ
	日本ステリ(株)
環境・臨床検査・受託研究	アース環境サービス(株)
	アイテック(株)
	イビデンエンジニアリング(株)
	オペロンバイオテクノロジー(株)
	(株)オリエンタルバイオサービス
	コージンバイオ(株)
	(株)日吉
(株)ユーベック	
IT関連	(株)アークシステム
	インフォコム(株)
	(株)NSD
	大津コンピュータ(株)
	(株)グローバルエンジニアリング
	(株)シーエーシー
	(株)シナリス
	TIS(株)
	(株)ビジネス情報テクニカルシステムズ
金融・商社	アルフレッサ(株)
	宇野(株)
	加藤産業(株)
	バイオ・ラッドラボトリーズ(株)
農業	朝日工業(株)
	東びわこ農業協同組合
機械等製造	揖斐川工業(株)
	エンゼルプレイングカード製造(株)
	川崎重工業(株)
	(株)コダマ
	シーシーアイ(株)
	(株)トップ精工
(株)光金属工業所	
流通	イオンリテール(株)
医療・福祉	社会福祉法人大樹会
	地方独立行政法人宮城県立病院機構
	宮城県立がんセンター
教育・研究	独立行政法人医薬基盤研究所
	学関西文理総合学園
	(株)京進
	一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム
	福島県立医科大学
その他	イオンディライト(株)
	(株)大翔
	WDB エウレカ(株)
	(株)日本予防医学研究所
	(株)ハイテック
	(株)レッドバロン

学費・奨学金制度

別冊子「2014年度入学試験要項」を必ずご覧ください。

●納入金(入学金・学費)

(単位:円)

	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	諸費(前期課程のみ)	計
前期分(入学時)	220,000	340,000	95,000	50,000	10,000	(前期課程)715,000 (後期過程)705,000
後期分		340,000	95,000	50,000		485,000
年間合計	220,000	680,000	190,000	100,000	10,000	(前期課程)1,200,000 (後期課程)1,190,000

●主な経済援助政策

日本学生支援機構大学院奨学金(外国人留学生を除く)〈予定〉

区分	月額貸与額	区分	月額貸与額
第一種(無利子)	博士課程前期課程 50,000円・88,000円から選択 博士課程後期課程 80,000円・122,000円から選択	第二種(有利子)	5万・8万・10万・13万・15万円より選択

※必ず採用されるとは限りません

長浜バイオ大学サポーター奨学金(外国人留学生を除く)

人数	月額給付額	備考
若干名	20,000円	学業成績優秀者を対象(給付期間:1年間)

長浜バイオ大学大学院学内奨学金(外国人留学生を除く)

人数	月額給付額	備考
若干名	30,000円	入学時に公募(給付期間:1年間)

●TA(ティーチング・アシスタント)

博士課程前期課程に在学する大学院生が授業の教育的補助業務を行うことにより、教育方法獲得と経済的支援を目的としています。

●RA(リサーチ・アシスタント)

本学の教員等の課題やテーマに取り組む研究プロジェクト等の効果的推進、研究体制充実および若手研究者の育成を図るため、博士課程後期課程に在学する大学院生を対象として設けており、研究深化と経済的支援を目的としています。

●私費外国人留学生対象

①私費外国人留学生学費減免制度

外国人留学生として本学大学院に入学する場合、申請・審査の上、認められた場合に入学金免除・授業料半額減免とします。

②長浜バイオ大学大学院私費外国人留学生特別奨学金

人数	月額給付額	備考
若干名	25,000円	入学時に公募(給付期間:1年間)

③学外奨学金制度

各種奨学金財団等から、毎年度募集依頼がありますので、大学院を通じ推薦します。

(例) 文部科学省外国人留学生学習奨励費 平和中島財団外国人留学生奨学金
ロータリー米山記念奨学会奨学金 文部科学省国費外国人留学生 等

2014年度入学試験日程

別冊子「2014年度入学試験要項」を必ずご覧ください。

課程	試験区分	出願期間	試験日	合格発表日
博士課程前期課程	一般入学試験	(2013年10月入学) 2013年6月25日(火)~ 2013年7月1日(月)	(2013年10月入学) 2013年7月26日(金) (注)	(2013年10月入学) 2013年8月2日(金)
	外国人留学生入学試験			
	社会人入学試験			
博士課程後期課程	一般入学試験	(2014年4月入学 第1回) 2013年9月24日(火)~ 2013年10月4日(金)	(2014年4月入学 第1回) 2013年10月12日(土) (注)	(2014年4月入学 第1回) 2013年10月25日(金)
	外国人留学生入学試験			
	社会人入学試験			
	特別推薦(前期課程のみ)4月入学	8月30日(金)~ 9月5日(木)	9月13日(金)	9月20日(金)
	特別推薦(前期課程のみ)10月入学	5月13日(月)~ 5月23日(木)	6月29日(土)	7月3日(水)

(注) 外国人留学生入学試験で筆記試験を行う場合、(2013年10月入学)7月26日(金)、(2014年4月入学第1回)10月12日(土)、(2014年4月入学第2回)2月21日(金)に実施。

※詳細は、2014年度入学試験要項をご参照下さい。第2回および10月入学試験は実施しない場合があります。出願者は事前に確認して下さい。

